

### 【基本方針】

医療と福祉の連携をとり、介護員、相談員、ケアマネジャー、医師、看護師、栄養士、歯科衛生士それぞれの専門性、独自性、応用力を活かし、一貫したケアを行い入居者様が安全かつ安楽な生活を送ることが出来るように努める。

### 【目標】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
- ② 皮膚トラブルの予防に努める。発生時は適切な処置を実施し早期治癒を目指す
- ③ 感染症の予防と拡大防止
- ④ 看取り介護の質の向上
- ⑤ 接遇・礼儀の徹底に努める
- ⑥ 経費削減に努める

### 【実践報告】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
  - ・ロング入居者様は週1回のバイタルサイン測定（以下 VS 測定）と入浴時の検温を実施、SS利用者様は毎日 VS 測定している。退院後や食事、排泄、精神状態に変調があるときは適宜 VS 測定を行い、異常の早期発見、対応に取り組んだ。
- ② 皮膚トラブルの予防と改善に努める
  - ・排便間隔、入浴回数等の関係から褥瘡の再発を繰り返している。また終末期において重度の褥瘡治癒を目指し、介護員と連携を取り改善に努めた。
- ③ 感染症の予防と拡大防止
  - ・今年度は家族と職員のインフルエンザの発症は数名あったが入居者様はロング入居者1名のみであった。職員の徹底した感染予防行動と各種関係機関との情報共有、密な連携の結果である。感染拡大時の対応を忘れず、常に危機管理意識を持つ。予防投与に頼らない感染予防を徹底したい。また1月上旬頃より、新型肺炎の発生、拡大により危機管理を各自徹底し施設内感染を防止したい。
- ④ 看取り介護の質の向上
  - ・令和元年度は24名の退居があった。内18名の利用者様の看取り介護をおこなった。医療と福祉の連携を図り、質の高い看取り介護が実施出来つつある。
- ⑤ 接遇・礼儀の徹底に努める
  - ・職員間同志の言葉遣いの改善はみられない。お互い注意し合える職場環境を目指してゆく
- ⑥ 経費削減に努める
  - ・新型肺炎の拡大に伴い、マスクや消毒剤の経費が増大している。また入手も困難な状況となっており、長引く感染対応に向けて更なる節約に努めたい。

## 令和元年度 病院受診者数と受診内容

	受診者数 (入院者数)	ロング入居者様の受診内容							ショートステイ利用者様の受診内容						救急搬送
		発熱	心不全 心疾患	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	発熱	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	
R01 4月	6 (0+1)						1	1				4	1	5	
5月	20 (3+1)	2	2			3	4	11			3	5	1	9	1
6月	25 (0+2)					7	2	9	1	1		12	2	16	
7月	12 (0+0)			1		5		6				6		6	
8月	13 (0+3)			1		3	2	6	2	2		3		7	
9月	18 (3+0)	3		1		6	3	13				3	2	5	1
10月	12 (2+0)	1			1	2	3	7				4	1	5	
11月	15 (2+0)	1			1	5	1	8				3	4	7	1
12月	17 (5+1)	3	2			2	2	9		1		4	3	8	2
R02 1月	12 (2+0)			1	1	6	2	10				2		2	
2月	14 (0+0)			1	1	5		7				5	2	7	
3月	19 (3+1)	1	2		1	10	2	16					3	3	
合計	183 (20+9)	11	6	5	5	54	22	103	3	4	3	51	19	80	5



## 令和元年度 受診動向のまとめ

特養ホーム 医務

令和元年度におけるショートステイ利用者様（以下 SS 利用者様）、ロング入居者様（以下入居者様）の受診動向の確認を行いました（別紙資料 1 をご参照ください）。受診者数、受診内容を確認することで傾向と対策を見出す手がかりとし、令和 2 年度における受診を減少できればと考えます。

SS 利用者様の受診総数は 80 件で昨年度より 6 件増加していますが定期受診や、その他の受診（入居時健康診断）によるものでした。入院件数は昨年とほぼ変わらず 9 件でした。ロング SS 利用者様の現病の悪化や転倒骨折によるものでした。情報が少なく病態が不明な事も多く予測判断が難しいと思われまます。ご家族や主治医、ケアマネより十分な情報収集を行い、悪化予防に努め、安定した体調で過ごす事ができることを目指します。

ロング入居者様の受診総数は 103 件で定期受診を除くと 23 件ほど減少しています。発熱やその他の受診では同一者の再発、再燃による入院が多くを占めておりました。それを踏まえ施設生活の見直しや処置を定期で行い予防に努めたことで再入院の間隔は開きつつあります。次年度は受診者数を 100 名下回れるよう看護に努めたいと思います。

ロング入居者様のインフルエンザ発症 1 名ありましたが感染が拡大することなく終息しています。予防投与については副作用による体調悪化や耐性が出来る可能性も十分に考慮し慎重に検討を行なう必要があると思われまます。流行時期の施設の対応（職員の感染予防意識、対策の徹底、環境調整、面会時の規制等）を徹底することが一番重要ではないかと考えまます。また感染時期の SS 利用時の迅速な情報の共有が感染防止の環境整備や隔離対応につながると考えるため継続してゆきたいと思ひまます。また新たに新型肺炎の予防や対応については今年度の課題として取り組んでいきたいと思います。

### 令和元年度の退居者数

* 退居者総数	24 名
病院死亡者数	4 名
ターミナルケア加算 死亡者数	18 名
ターミナルケア加算外 死亡者数	4 名
転院者数	2 名